

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 東京都 |
|-------|-----|

学校の概要(平成15年4月現在)

| | | | | | | | | | |
|-----|------------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 武蔵野市立第三小学校 | | | | | | | | |
| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 12 | 18 |
| 児童数 | 63 | 75 | 59 | 61 | 69 | 73 | 0 | 400 | |

研究の概要

1. 研究主題

| |
|----------------|
| 確かな学力と基礎・基本の定着 |
|----------------|

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

| |
|--|
| <p>・ 4、5、6 学年・国語、算数</p> <p>児童の理解の状況に差が出やすく、各教科の学習の基礎・基本となる教科内容であるため。</p> |
|--|

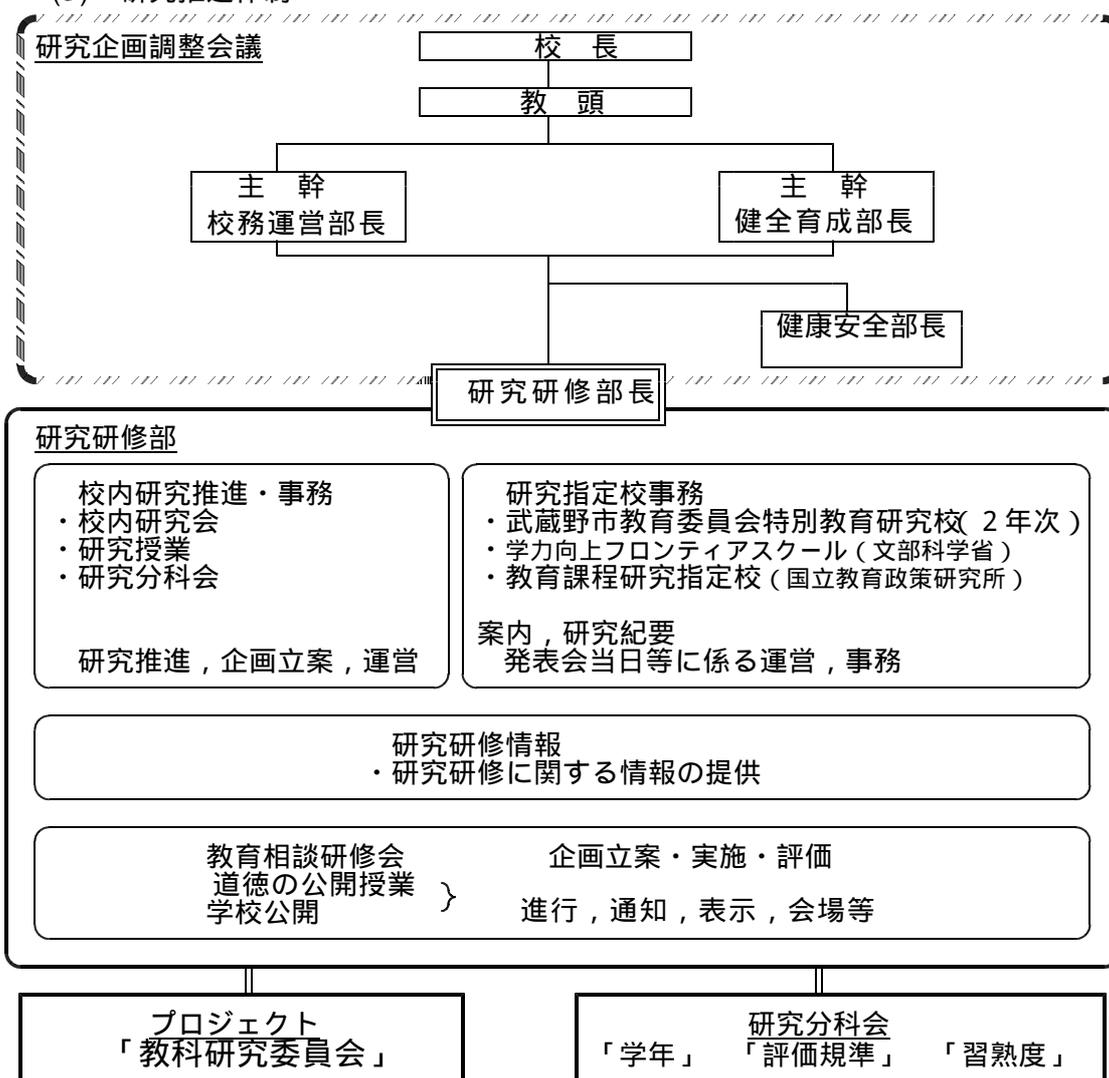
(2) 年次ごとの計画

| | |
|--------|--|
| 平成14年度 | |
|--------|--|

| | |
|--------|---|
| 平成15年度 | <p>テーマ 確かな学力と基礎・基本の定着 研究の見通し 昨年度より基礎・基本の充実を目指し、算数を中心とした基礎学習の時間の設定及び充実について研究に取り組んでいる。 今年度はこの基礎学習の時間15分間の活用の仕方をさらに検討し、国語(言語事項)の習得に活用できるよう計画的に実施していく。また、通常の時間においても、少人数指導の積極的な導入を試み、個に応じた学習指導の充実に努める。</p> <p>研究の内容・方法 基礎学習の時間における本校の年間計画「武三基礎基本」の策定 基礎・基本の定着のための指導方法の工夫改善</p> |
|--------|---|

| | |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ 確かな学力と基礎・基本の定着 研究の見通し 15分間の基礎・基本の学習と、通常の時間を組み合わせた指導法や、さらに個に応じた学習指導を充実させるための工夫など15年度の研究の深化、拡充を図る</p> <p>研究の内容・方法 少人数指導、習熟度別指導、発展学習への対応</p> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

- (1) 学習を成立させる基本的な力となる事柄を知識として身に付ける。
 - ・漢字を正しく読み書きできる児童が増えた。
 - ・意味調べ、言葉集めを辞書を使ってまめに行うようになり、作文の中に使われる漢字や熟語表現が多くなった。
 - ・発達段階に応じた敬意表現が身に付いてきた。
 - ・計算問題が速く正確にできるようになり、自信をもって学習に取り組む児童が増えた。
 - ・既習事項を繰り返し学習することで、既習事項を活用する単元での導入が抵抗なく行えるようになった。
 - ・数の合成分解を、アレイ図を用いた操作的活動を取り入れたことで、数を多様に見ようとする姿が見られた。
- (2) 身に付けたことを活用して、問題を解決していける力を身に付ける。
- (3) 自分が考えたことを人に伝える力を身に付ける。
 - ・意味調べ、言葉集め、熟語調べなどの活動を自主的に行うようになり、読むことの学習に進んで取り組めるようになった。
 - ・自分の言葉で表現する場を設定したことで、声の大きさ・速さに気を付けて発表することができるようになってきた。
 - ・いろいろな本を読もうとする子どもが増え、図書室を頻繁に利用するようになった。
 - ・本を読むことで語彙が豊富になり、他の教科等の学習にその力が活かされてき

- た。
- ・発展学習として行った「問題づくり」では、ヒントを考えたりすることで意味理解を深めることができた。
- ・さらに、次のような学力向上につながる児童の姿も見られた。
- ・朝の15分間を有効に活用することで、1日の学習のスタートをスムーズに切ることができた。
- ・自分から進んで本を読む習慣ができた。また短時間の読書で集中力も増してきた。
- ・15分間の基礎学習の時間と1時間目の45分をつなげて60分とする展開もでき子どもの活動時間が十分にとれ、お互いの問題を解き合う活動で生き生きと問題に取り組んでいた。

2 今後の課題

- ・学級で全員が1つのものに取り組むよさはあるが、今後は個に応じた課題や発展的な学習への取り組み方を検討する必要がある。
- ・基礎学習では15分間ということで集中して取り組むことができたが、45分の授業の中でもそのよさを発揮して学習に取り組めるよう授業展開を工夫していくことが必要である。

学力等把握のための学校としての取組

- ・学期ごとの習熟度テスト
- ・作文等、児童作品の分析

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究発表会（平成16年1月30日、本校において中間発表として、15分間の基礎学習の時間の様子を授業公開）
- ・研究成果のまとめを、「研究指導資料・武三基礎基本」「シリーズ武三の教育第3号」として発行

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | |
|----------------------|----------------------------------|------------------------|
| 【新規校・継続校】 | ■ 15年度からの新規校 | □ 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | □ 6学級以下 □ 13～18学級 □ 25学級以上 | ■ 7～12学級 □ 19～24学級 |
| 【指導体制】 | ■ 少人数指導 □ 一部教科担任制 | □ T・Tによる指導 □ その他 |
| 【研究教科】 | ■ 国語 □ 生活 □ 体育 | □ 社会 □ 音楽 □ その他 |
| | ■ 算数 | □ 理科 □ 図画工作 □ 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | 無 |